

基本目標Ⅰ：子どもや若者が心身ともに健全で夢や希望を持って成長できる社会の実現**1 基本目標の評価****(1) 市民満足度**

- 「子ども・若者の児童健全育成環境の充実」に対する市民満足度

H30(基準値)	R4(実績値)	R4 評価(R3 評価)
33.3%	20.0%	△ (○)

⇒ 社会全体による子育て・子育ての支援や、青少年の社会的自立支援など、各種施策事業に取り組んだものの、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化したことから、施策・事業に対する市民のアクセスが限定的になったことにより、基準値を下回ったと考えられる。

「わからない」と回答した割合が過半数となっていることから、本市が取り組んでいる施策・事業について、様々な媒体を効果的に活用しながら、更なる情報発信に努める。

(2) 成果指標

- 青少年総合相談において、支援につなぎ、支援が開始されるなど、相談が完結した人数（人／年間）

H30 (基準値)	単年度目標値	R6 (目標値)	R4 評価(R3 評価)
	R4(実績値)		
39 人	50 人	57 人	△ (△)
	29 人		

⇒ 令和4年度の実績値は、基準値を下回ったものの、青少年自立支援センターにおける家族講座等の早期相談につなげる取り組みや、相談につながった方への寄り添い型の継続的な支援により、「他機関へ移行する前に、悩み事の改善や事態の収束が図られるケース※」が増加している。(H30：62人⇒R4：73人)

※「登校渋りをしていた若者が学校に通えるようになった」あるいは、「家庭内での揉め事が落ち着いた」など、他の支援機関に引き継ぐ前に状況が改善したケース

(3) 基本施策目標

基本施策	目標指標	R4 評価(R3 評価)
1	「こんにちは赤ちゃん事業」の訪問面接率	○ (○)
1	幼児健康診査の受診率	○ (○)
1	毎日、朝ご飯を食べている児童生徒の割合	○ (○)

基本施策	目標指標	R4 評価 (R3 評価)
2	学校が小中一貫教育、地域学校園に取り組んでいると思う保護者の割合	○ (○)
2	「宮っ子ステーション事業」のうち、「放課後子ども教室事業」と「子どもの家・留守家庭児童会事業」を一体的に実施している校区数	○ (○)
2	放課後子ども教室の実施校数	○ (○)
3	ここ・ほっと巡回相談事業における5歳児チェックリストの回答率	○ (◎)
3	児童発達支援のサービス供給量	◎ (◎)
3	放課後等デイサービスのサービス供給量	◎ (◎)

⇒ ○が過半数であり、「概ね順調」な進捗状況（R3：「概ね順調」）

2 課題

長期化する新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの人々が不安を高め、孤独・孤立に至ることが懸念されていることから、特に、自立に困難を抱える若者等が、いち早く支援につながるよう、地域に密着した支援者等と連携を強化し相談窓口の周知啓発を行うとともに、ひきこもり等に対する家族や周囲の理解促進を図るための取組が必要である。

3 取組の方向性（課題への対応）

自立に困難を抱える若者への接し方や配慮のある就労等について、家族の理解を深めるための講座を拡充するなど、相談窓口の利用につながるよう周知啓発を強化するとともに、重層的支援体制整備事業における「共生型の相談窓口」となる地域拠点やデジタル適応支援教室を実施する教育委員会等との連携を図り、切れ目のない支援に取り組む。また、相談者の特性に応じた、より効果的な支援が行えるよう、令和4年度から新たに導入した青少年心理アドバイザーによるアセスメントを引き続き活用し、個別支援計画の作成や見直しに反映するほか、ひきこもり回復期にあり、来所ができるようになった若者に対し、他者との交流や社会とつながる経験値を増やすため、令和5年度より新たに若者自立支援ステップアップ事業を実施する。

基本目標Ⅱ：結婚・妊娠・出産や子育ての希望がかなえられる社会の実現

1 基本目標の評価

(1) 市民満足度

- 「子育て支援の充実」に対する市民満足度

H30(基準値)	R4(実績値)	R4 評価(R3 評価)
29.9%	31.4%	○ (○)

⇒ 「共働き子育てしやすい街ランキング2022」において、引き続き、上位にランキングしており、「宇都宮市子ども・子育て支援事業計画」に基づく計画的な教育・保育の供給体制の確保による年間を通した待機児童ゼロの実現等により、堅調に推移したものと考えられる。

(2) 成果指標

- 令和5年3月1日現在の待機児童数

H30 (基準値)	単年度目標値	R6 (目標値)	R4 評価(R3 評価)
	R4(実績値)		
102人	0人	0人	◎ (△)
	0人		

⇒ 既存施設における利用定員の弾力化の積極的な活用を図るとともに、保育所等の新設整備や、局所的な保育ニーズに対応する送迎保育事業に取り組み、市内の保育需要に対して必要な供給量を確保した。また、保育士確保のための事業推進や、事業者に対して助成事業の積極的な利用の働きかけを行い、保育の担い手である保育士の確保に努めたことにより、本市で初めて「年間を通した待機児童ゼロ」を実現した。

(3) 基本施策目標

基本施策	目標指標	R4 評価(R3 評価)
4	女性活躍推進法に基づく一般事業行動計画を策定した企業数	◎ (◎)
4	結婚したいと思う人の割合(20代)	○ (◎)
5	産婦に占める産婦健診受診者の割合	○ (○)
6	子どもの家・留守家庭児童会のクラス数	○ (○)
7	ひとり親家庭に支給する児童扶養手当の一部支給家庭の割合	◎ (◎)

⇒ ○が過半数であり、「概ね順調」な進捗状況(R3:「概ね順調」)

2 課題

少子化が急激に進行している一方、共働き世帯の増加などの社会環境等の変化により保育ニーズのさらなる高まりが見込まれており、今後とも、子どもを安心して生み育てることができる環境を整備していくためには、保護者が安心して子どもを保育所等に預けられるよう、保育の質の向上に継続して取り組む必要がある。

3 取組の方向性（課題への対応）

「年間を通じた待機児童ゼロ」を継続的に達成していくため、引き続き、利用定員弾力化の積極的な活用や保育士確保のための各種施策を実施していく。また、子どもの発達状況や保育所の利用の有無などの世帯状況に関わらず、全ての子育て世帯が質の高い保育サービスを受けることができるよう、令和5年度においては、「発達支援児保育研修補助事業」や「保育所の空き定員等を活用した未就園児の定期的な預かりモデル事業」を開始するなど、体制の充実・強化を図っていく。

基本目標Ⅲ：地域全体ですべての子どもや若者、子育て家庭を支えあう社会の実現

1 基本目標の評価

(1) 市民満足度

- 「子どもを守り育てる支援の充実」に対する市民満足度

H30(基準値)	R4(実績値)	R4 評価(R3 評価)
26.1%	20.9%	△ (○)

⇒ 困難を抱える子育て家庭への支援については、各種施策事業を展開しているところであるが、子どもの貧困や児童虐待が全国的に大きな社会問題となっており、その対策等に係る市民ニーズの高まりや、それらの報道等による影響が市民満足度に反映されやすいことなどにより、基準値を下回ったと考えられる。

(2) 成果指標

- ファミリーサポートセンターの延べ利用者数

H30 (基準値)	単年度目標値	R6 (目標値)	R4 評価(R3 評価)
	R4(実績値)		
13,580 人	16,220 人	20,180 人	○ (○)
	14,706 人		

⇒ 新型コロナウイルス感染症により行動が制限される中においても、「ファミリーサポートセンター協力会員講習会」をこれまで同様に開催するとともに、新規会員の勧誘にも努めたことなどにより、ファミリーサポートセンターの延べ利用者数は増加傾向にある。

(3) 基本施策目標

基本施策	目標指標	R4 評価 (R3 評価)
8	子育てサロン登録者数	△ (△)
8	ふれあいのある家庭づくり作品コンクール 応募点数	○ (○)
9	児童虐待による重度事案発生件数（市が支援 しているもののうち、分離保護など児童相談 所による専門的な対応を要する事案）	△ (○)
10	友達の人権や気持ちを考えて行動している 児童生徒の割合	◎ (◎)
10	学習や運動、文化・芸術活動などで自分が立 てた目標を達成できるよう家の人が応援し てくれる子どもの割合	○ (○)

⇒ **○が過半数であり、「概ね順調」な進捗状況（R3：「概ね順調」）**

2 課題

全国的に児童虐待相談対応件数が増加傾向にある中、本市における重度事案発生件数は増加し適切な支援につないでいるところであるが、早期から支援を必要とする子育て家庭を把握し、個々の状況に応じたきめ細かな支援による重篤化の防止や予防的な支援ができるよう、地域での見守り体制の強化を図るとともに、母子保健事業や子育て支援サービスの充実を図る必要がある。また、子ども家庭総合支援拠点においては、専門職による相談支援体制の更なる充実が必要である。

3 取組の方向性（課題への対応）

令和5年4月に設置したこれまでの子育て世代包括支援センター（母子保健）と子ども家庭総合支援拠点（児童福祉）の機能を一体化した「子ども家庭センター」において、ヤングケアラーコーディネーターを新たに配置するなど、地域や関係機関との更なる連携強化を図るとともに、市内5か所の子ども家庭センター相談窓口にも母子保健相談員を新たに配置するなど、母子保健事業や子育て支援サービスの充実、職員の専門性や対応力の強化による相談支援体制の充実に取り組む。